

7番（小川義昭君）

今8月会議での最後の一般質問であります。市議会通算41回目の質問で、このようなトリを務めるのは今回が初めてでございます。通告に従ってしっかりと質問いたしますので、どうかおつき合いをお願いいたします。議席番号7番、白政会、小川義昭でございます。

今8月会議には、私を含め12人の議員が質問に立ちました。この神聖な議場において、我々議員が熱い議論の主演であろうと努めることはもとよりですが、受けて立つ市長を初め執行部もまた、熱い議論の一方の主演として真摯に受け答え、なおかつ果敢に前向きに議論の中身を行政の充実に生かしていただかなくては、市政の両輪を自負する議会の立つ瀬がございません。

とりわけ山田市長におかれては、4年に及ぶ任期のほぼ折り返しに差しかかる今8月会議において、みずからの考えをみずからの言葉で御答弁いただき、その上で、具体的な山田市政の成果を目指す足がかりとして下さいませよう、切に御要望を申し上げ、私の質問を始めたいと存じます。

1番目の質問であります。

昨年3月14日の北陸新幹線金沢開業は、石川県、特に金沢市において、事前の想定を上回る多大な開業効果をもたらしたことは、既に周知の事実となっております。県によれば、この1年間の北陸新幹線利用者は、前年の在来線利用者の3倍に当たる約1,000万人を超え、これに伴い、外国人旅行者の入り込みも大幅にふえています。

さらに、石川・金沢の認知度が全国的に高まったのに伴い、サンダーバードを利用する関西方面からの観光客もふえ、また、想定外の効果として、大宮で東北新幹線から乗りかえる宮城・福島県からの観光客が、前年比1.5倍の約20万人にも達しているとの集計も出ています。

こうした入り込み客数の増加により、金沢市内では、まち歩きする観光客が激増し、新たに支店・営業所を開設した県外企業が50社を超えるなど、新幹線開業による相乗効果は絶大であります。しかも、これらの開業効果は今なお持続しており、ことし5月のゴールデンウィークには、金沢市内の主要ホテル、加賀の4つの温泉、和倉温泉などは、開業前年との比較で約1.3倍もの宿泊客で潤い、石川県の経済指標が全国トップクラスに躍り出たことを物語っています。

そこでお伺いいたします。

北陸新幹線の金沢開業は、この1年、白山市にいかなる効果をもたらしたのでしょうか。都会に暮らす人々の感覚からすれば、隣接する金沢から電車ではほんの数分で到着する白山市は、十分に行動範囲に入っていて不思議ではありません。しかるに、実情はどうであるのか。改めて、この1年間のJR金沢駅か

ら J R 松任駅におり立った観光客などの入り込み数を明らかにして、その数をもって是とされるのか否かをお伺いいたします。

観光客は指をくわえて待っていても、決して来訪してはくれません。しからば、いかにして訪れていただくか。そのためには、白山市を訪れてみたいと思わせる魅力を積極的に発信し、J R 松任駅におり立った後のアクセス・おもてなしの方策が不可欠かと考えます。

来年は、白山開山 1300 年の年でもあり、開山 1300 年に伴う誘客事業にも積極的に取り組んでいることから、J R 松任駅からの観光客の受け入れ策も考慮しなければなりません。J R 松任駅及び駅の周辺が活気づき、にぎわいを醸し出すための政策は、新幹線時代を迎えた今、極めて優先度の高い急務であると考えますが、御見解をお伺いいたします。